

WEEKLY BULLETIN

会報 2016-2017

11月10日(木) 第16号
第2809回例会
第2510地区

●本日のロータリーソング 君が代、四つのテスト

Rotary



米山記念奨学事業について

札幌東ロータリークラブ

■パストガバナー 塚原 房樹 会員



皆様をお願いしたいことがあります。地区大会シーズンでどのクラブに参りましても、札幌東クラブさんは東京以北最大のクラブで親睦はじめ、奉仕事業も立派であるとよく褒められます。そこで心にちくりとくることがあります。札幌東クラブは普通

寄付金3000円ですが全国的には1人4000円となっており、なんとか4000円にさせていただくと12万円ぐらい増額になります。なんとか今年の理事会が次年度に値上げをしていただきたいと切なる願いでございます。

■米山奨学委員長 佐々木 和宏 会員



ロータリー米山記念奨学事業とは、日本のロータリーが作った独自の事業で、34地区、全地区の合同プロジェクトです。1952年から、一貫して日本で学ぶ外国人留学生を支援しています。「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」は、この

事業を行うために日本のロータリーが協同して運営する奨学財団で、財源はすべて寄付で成り立っています。この奨学金の最大の特徴は「世話クラブ・カウンセラー制度」です。世話クラブ・カウンセラーになったロータリアンからは、「一度カウンセラーをするとやみつきになる」、「いったんロータリーを退会したが、また米山に関わりたくて再入会した」、「目に見える国際奉仕の最前線。これほど面白いチャンスはめったにない」といった声が寄せられています。

1946年、「日本のロータリーの父」米山梅吉氏が亡くなりました。3年後の1949年、戦争のため解散を余儀なくされた日本ロータリーが国際ロータリーへ復帰しました。

1952年、東京RCの古沢丈作会長が「米山基金」の構想を発表しました。これは、アジアから優秀な学生を招いて学費を援助し、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために「平和日本」を肌で感じてもらいたいというものでした。こうして東京RCが始めた「米山基金」は、わずか5年

本日のプログラム

トレーナーから見た日常生活に必要なストレッチ
～ゴルフ向上ストレッチ～

合同会社ベストパフォーマンスJATI認定
トレーニング指導者 金崎 允宣 氏

で、日本ロータリークラブの共同事業として継承され、1967年には財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。今では日本で民間最大の国際奨学事業となりました。2016年度の奨学生は750人、7月の累計で、世界124の国と地域から19,197人を支援しています。当地区では今年度15人の奨学生を受け入れ、国・地域別には、中国・韓国・台湾などとなっています。

奨学生の選考は、地区(米山選考委員会)が「指定校」を選び、10月の締切に合わせて候補者が推薦されます。推薦学生を地区で面接し、最終的な合格者を決めています。米山奨学事業の使命は、将来日本と母国の懸け橋になる優秀な人材を育成することです。その資質を選考するために「学業」、「異文化理解への柔軟性」、「コミュニケーション能力」などを総合的に判断し公平に選考しています。米山の情報は、米山奨学会のホームページや公式フェイスブックページ、「ハイライトよねやま」(毎月1回発行メールニュース)、「ロータリーの友」よねやまだより、「米山学友の群像」(※vol.5を2016-17年度発行)などで発信されています。

米山は、みなさまからの寄付金と資産の利子収入だけで成り立っています(収入約16億、支出約13億)。いただいた寄付金は奨学事業だけに使い、管理費(5%)は利子収入で賄っています。当地区の寄付実績は10,386円(34地区中28位)。普通寄付金3,145円、特別寄付金7,241円です。2017年7月、米山奨学会は財団設立50周年を迎えます。もう一度、われわれの先輩が作り受け継いできた米山記念奨学事業の意義を見直し、さらに発展させてまいりましょう!

メンバー

例会時に円卓上の4つのテストを黙読ください。4つのテストは1954年にハーバート・テラー(1954RI会長)が会社再建に考え実践。今ではRCの基本理念の一つになっています。